



射水

射水神社社報
第22号



逆さ二上

変わらぬ姿

日本の風土は四季折々に様々な表情を醸し出し、我々の生活に潤いと畏敬の念を抱かせる。殊に今年は全国的にも台風による水害が多く、今更ながらに自然の脅威を感じさせられる年である。被害に遭われた地域の方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、当社の禰宜であつた広瀬喜太郎とも交流のあつた徳富蘇峰は、明治四十年六月、初めて当地に來遊した際、当社に参拝した後、古城公園を散策し、その時の印象をその著『第三天然と人』の一節「高岡公園と二上山」に、

(前略)：城濠には、水草浮び、其の側には蘆葦横生し、而して城趾の内外、神社を除けば、何れも野草茫茫、唯だ赤松翠杉の、天を突て峙ち立つを見るのみ。而して其の小高き地点に上れば、伏木港の橋竿、煤煙を隔て、日本海の海光あり。其の四方削り成したるが如き近山は、神保氏の旧城跡にして、大伴の家持が「鳥羽玉の夜や更けぬらむ玉くし

け二上山に月傾きぬ」と詠じたる二上山也。松杉の疎なる所、萩を植う。

：(後略)

と書き記し、又、「自然の野趣を十二分に發揮したる公園也」と印象を述べて、絶賛したのである。

明治四十二年、東宮行啓を期に松・桜が植えられ、公園整備に一転期を画してはいるが、今も尚、四季折々の香りを醸し出し、その自然の野趣が漂っている。

そして、人々は、その中に佇む射水神社に朝夕にお参りされている。この姿は昔も今も変わらぬ姿である。参拝する人のなかには御利益を求めて参拝される方もあれば様々であろうと思う。外国の人であれば、壮大な聖堂、魅力的な建物、信仰する像があるから行くという発想があると思うが、神社の神様の姿は目に見える像でもなく、社殿も決して壮大でもない。むしろ濃い緑と自然の佇まいだけである。その自然の佇まいというのが、日本人の言葉にならない、あるいは教義とかの形ではなく、清らかな気持ち、気

射水神社宮司 松本正昭

持ちの改まりを求め参拝されるのではないかという気が強く感じられる。

これからも、どのように世相が変わろうとも、この自然の中に奥深く鎮まりながらひっそりとあるというお宮の在り方。その事が日本人にとってまだまだ「お参りする」という意味になるのではないかという気がする。

神道を基調とする日本の文化は、自然との調和のもとに育まれてきたといえる。我々神職も御祭神の神威を畏み、今日まで先人達が守り伝えてきた伝統文化に新たな息吹を吹き込み、次の世代に引き継いでいくことが肝要である。

来年秋、当神社がこの自然の杜に遷座されて以来、百四十年の節目の年を迎えることから、先般、式年大祭奉賛会が設立され、準備を進めているところであります。

何卒、崇敬者の皆様には引き続き、射水神社の護持と更なる発展のため、御協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

臨時総会並びに式年大祭奉賛会結成式

紀元祭が斎行された二月十一日、崇敬奉賛会の臨時総会が開催されました。

百歳の賀寿となられた綿貫武会長が退任されることとなり、新たに穴田甚朗理事が会長、荻布精一理事が副会長に選出され、新役員体制となりました。

引き続き、平成二十七年秋の射水神社御鎮座一三四〇年・御遷座一四〇年式年大祭の斎行に向け、式年大祭奉賛会結成式が開催されました。

結成趣旨及び経過報告が説明され、新たに「式年大祭奉賛会規約」を承認。役員が選任され、募財目標や新下水舎等の記念事業概要が発表されました。

定例総会

また、本年度の崇敬奉賛会総会が七月二十一日に参集殿で開催されました。

会員を代表して橘総裁が玉串を奉り正式参拝。引き続いての総会は「国旗儀礼」に始まり、平成二十五年「活動報告・決算報告」、



臨時総会——総裁挨拶

平成二十六年「活動計画・予算」(案)についてそれぞれ承認されました。
また、式年大祭に向けた各記念事業の概要説明が行われました。
その後、基調講演として、鈴木瑞麿水見市立図書館長より「国鎮守としての射水神社」と題してご講演をいただきました。



定例総会——
講演される鈴木瑞麿先生

◆新入会員

平成二十五年

関 聡

長谷川和子

株式会社大高運輸

丸和ケミカル株式会社

有限会社黒川商事

平成二十六年

荒田 寛明

林 恵美

株式会社匠技創

株式会社デジカム

美恵ビューティーハウス

(敬称略)

綿貫武名誉会長 逝去

八月七日帰幽 享年一〇一歳

平成十七年より本会会長となられ、この間、橘慶一郎総裁を新たに推戴、さらなる会員組織の拡充にもつとめられました。

生前の御厚情に深謝し、心より哀悼の意を捧げます。

杜の景色

祭事暦（上半期）

1月1日	歳旦祭 初詣
1月14日	左義長 (射水の火祭)
2月3日	節分祭
2月11日	紀元祭
2月17日	祈年祭
3月21日	春季皇霊祭
4月17日	高岡市護国神社 春季例大祭
4月18日	日吉社春祭
4月23日	春季例祭
4月27日	院内社春祭
4月29日	昭和祭
5月13日	悪王子社春祭
6月27日	鎮火祭
6月30日	夏越大祓 人形感謝清祓式
7月1日	職場安全祈願祭
7月10日	悪王子社秋祭
7月21日	崇敬奉賛会 総会
7月25日、27日	奉納書道展
毎月1日朔日祭・23日月次祭	

麗しく

春季例祭を斎行

最重儀の春季例祭は、四月二十三日、約六十名の崇敬者各位ご参列のもとに斎行され、宮司が越中国内の平穩を祈る祝詞を奏上。崇敬奉賛会からは幣帛が奉られ、献幣使の穴田甚朗崇敬奉賛会会長が祭詞を奏上いたしました。

尚、昭和五十年に行われた御鎮座千三百年・御遷座百年祭はこの嘉日を以て斎行され、畏き辺りより奉幣の榮に浴しました。



崇敬奉賛会よりの幣帛を献じる



中部地方では神宮と当社のみでの公開となった

伊勢神宮式年遷宮奉納

井上雄彦氏墨絵

「承」特別展

神宮式年遷宮を奉祝し、漫画家の井上雄彦氏が描き、神宮に奉納された墨絵「承」が、三月八日より十六日までの間、当社参集殿において特別公開されました。

本展は全国十か所で巡回開催されたもので、墨絵の他、スケッチや写真パネルを含め約四十点が展示され、貴重な機会に多くの参拝者が作品に見入りました。

第三十五回 奉納書道展を斎行

神様へ奉納するという自覚のもと、精神と技能の向上を目指し、諸団体の協賛・後援を得て昭和五十五年より始められた「奉納書道展」が目出度く第三十五回を迎えました。

合計一〇八五点の作品が寄せられた今回は、初めて県外からも出品があり、七月二十八日には、約二百名の参列者を迎えて盛大に奉納奉告祭並びに筆感謝清祓式、表彰式を斎行いたしました。



参集殿 瑞祥の間にて

御鎮座千三百四十年・御遷座百四十年

式年大祭並びに記念事業のご奉賛だより

平成二十七年の御鎮座千三百四十年・御遷座百四十年式年大祭肅行まで、まもなく一年となります。

本年二月に結成された式年大祭奉賛会の事業も崇敬者各位のご奉賛により順調に進捗致し、新水舎・水鉢移設等の工事も年始より順次着工、翌年八月末の竣工を予定致しております。

この度の記念事業は、ご参拝の皆様がより良い環境で清々しくお参りできるように計画を致したものの、日々のお参りに欠かせない水舎の工事である為、ご不便をお掛けすることと存じますが、何卒ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、ご奉賛につきましては、下記の通り随時受付を致しております。

○詳細は当神社HPよりもご覧いただけます。

<http://www.imizujinja.or.jp>

◎奉賛金額に対する顕彰について

奉賛額	奉祝祭御案内	記念品贈呈	境内屋外芳名掲載	拝殿内芳名掲載	徽章贈呈	感謝状贈呈	記念牌贈呈
300万円以上	○	○	○	○	○	○	○
100万円以上	○	○	○	○	○	○	○
50万円以上	○	○	○	○	○	○	
30万円以上	○	○	○	○	○	○	
10万円以上	○	○	○	○	○	○	
5万円以上	○	○	○	○			
3万円以上	○	○	○	○			
1万円以上	○	○	○				

記念事業の概要

境内水手舎新設・旧水鉢回廊内移設・御本殿屋根修繕・鳥居脇参入道整備 等

◎総事業費 伍千万円

◎完成予定 平成27年8月

◎奉賛金額

- ▶一口 特別奉賛(法人) 壹拾万円以上
- ▶一口 法人 参 萬 円 以上
- ▶一口 個人 壹 萬 円 以上

※何口でもご奉賛頂けます。

平成 26 年 七五三年表 ※数え年齢・満年齢どちらでもお受けできます。

	数え年齢	満年齢	性 別
7 歳	平成20年生	平成19年生	女の子
5 歳	平成22年生	平成21年生	男の子
3 歳	平成24年生	平成23年生	男の子 女の子



※その他、衣装・着付・写真など、便利なセットもございます。詳細は社務所までお気軽にお問い合わせください。

※数え年とは生まれた年を「一歳」と数え、お正月を迎えるたびに日本人のすべてが神々から新しい生命を頂き、一つずつ年齢を重ねる数え方です。

“つつくしの杜”で、一生残る感動の一日を。

七五三は、三歳の男女（髪置）、五歳の男児（袴着）、七歳の女児（帯解）のお祝い、大人に近づいていくことを神様にご奉告、感謝し、成長を祈る行事です。お子さまの今日までの無事な成長に感謝し、今後の幸せと成長をお祈りする大切な日は、射水神社にお参りください。

七五三 宮まいりのご案内

射水神社

検 索

TEL(0766)22-3104

神前結婚式

平成二十六年

如月 二月挙式

多田 悟・麻紗恵
吉田 昇平・真由子
原田 聖也・直美

弥生 三月挙式

廣 和仁・結香
広瀬 篤・真梨子
大浦 寛史・好見

山崎 隆博・寿子
浄土 貴仁・真弓

高田 雅行・友香里
麻生 孝之・淑美

中山 隼人・さおり
辺井 瞬・麻希

稲垣 雅史・智美

卯月 四月挙式

ナイル・ダニエル・佑三子

皐月 五月挙式

税 光友・昭・美佐子
岡 本健司・詩織里
原田 裕太・翼
大道 匠・栄子
三國 玄剛・康乃
角島 吉彬・鮎美
岡田 大輔・友子
四柳 秀和・智子

元井 慎治・安通子

長田 崇・彩

大江 茂喜・亮子

大谷 卓・千草

小橋 隆一・真理絵

宮川 邦夫・なぎと

三浦 志門・幸恵

加藤 知哉・悠里

椎名 巖志・佳枝

澤井 恵一・一恵

水無月 六月挙式

藤森 和也・真衣
布村 悠久人・葵
太田 吉則・由恵
米澤 一浩・由紀子
中島 賢太・紀子

吉田 大輔・清美

岩崎 裕樹・真実

室 聡明・琴美

中野 佑一・有紀

関 周太郎・純子

安井 一人・清美

竹田 英司・有里子

新原 直人・由香里

島 泰徳・智奈美

樋口 達矢・恵子

金子 政夫・恵

草野 雄介・優香

ご奉納

調度品

・几帳 一基

松村きみ子

製作者

中嶋外志男

和子

版画

・市野龍起作石版画集

『花』五枚（二式）

藤田 敬子

絵画

・「梟」（日本画）一点

他、色紙 二点

伊藤 三春

・「龍」（日本画）一点

河合 晴明

（敬称略）



『ふるさと』

射水神社

⑳元宮・二上射水神社の 築山神事のこと(その二)

以前の築山の祭は、前日に宵宮の祭が執り行われていた。

享保二年(一七一七)に書かれた『二上山大権現由来書』によると、岳(やま)の山王権現(日吉社)が、酉の刻(午後六時)までに院内社までお下りになられ、山王権現より五町ほど下に鎮座する悪王子権現がかつて人身御供をとつていたので、悪王子社の前を神輿がお下りの際は静かに通り過ぎ松明を伴いながら、神輿休み処では松明を合図に氏子達は拝奉り、三島野(現射水市二口)の神樂川、放生津神樂橋(現射水市放生津町)で山王権現がお下りになるまで神樂を奏していた。当夜は院内社に神輿

が入り奉り、翌日午の刻(正午)に神輿が御本社に御入りになられた。

これが、明治以降は前日の夕刻、神職と頭屋にあたる奉仕者の山森氏(屋号ゴヘイドン)が、二上山山頂で日吉社の神を依代の御幣に迎えて下り、一夜自宅でお祀りし、祭当日の朝、本殿内にお遷りする形となったと思われる。

現在、この宵宮の祭は行われておらず、当日午後二時から社殿にて例大祭を斎行後、本殿内より二上大神を本殿前に並べられた船形の神輿にお遷しし神幸の祝詞を奏上、日吉社・院内社の神輿と共に境内を巡幸する。列はゲンダイ獅子を先頭に大旗、禰宜、伶人、ゴヘイドン、太刀持ち、宮司と続き、院内社・二上大神・日吉社の神輿、巫女、総代長の順となっている。

途中で院内社の神輿だけ鳥居の外に出て院内の大神をお迎えた後、改めて参入し、二上大

神と日吉社の神輿の間に入る。これを「院内わりこみ」という。列を正した後、築山の前まで進み、神輿三基を並べて御旅所祭が斎行される。

次に昔は射水川(現小矢部川)の伏流水がとうとうと溢れ出ていた「天の真名井」まで進み祝詞本殿前に戻り還御の祝詞となり、一時間程で神幸が終了する。

祭儀終了は午後四時前であり、築山はすぐに解体される。遅れると祭儀に招かれなかった「悪王子社」の神様が荒れ、その年は凶作になると伝わる。



境内を巡幸する一行

編集後記

今号は、例年より約一ヶ月遅い発行となりましたこと、心よりお詫び申し上げます。

来年、御鎮座一三四〇年・御遷座一四〇年の佳節の年を迎える為、今号は式年大祭に関する話題が多くなりました。(詳細は、当社ホームページをご覧ください)

そして、式年大祭に向け、県内外の方々より、真心のこもった多数の奉納のお品を賜りましたことに、この場をお借り致しまして職員一同より厚く御礼を申し上げます。

結婚式場においては、披露宴会場の一室「饗膳殿」をリニューアルすることになりました。九月初旬に、みなさまにお披露目予定となっております。

末筆ながら、崇敬者みなさまの益々の弥栄をご祈念申し上げ、社報第二十二号をお届け致します。

発行 射水神社
発行日 平成二十六年八月
発行所 〒九三〇四四 高岡市古城一
TEL (〇七六六) 二二一三二〇四
FAX (〇七六六) 二二一三七一五
印刷所 キクラ印刷株式会社

今秋、新バンケットオープン!

「饗膳殿」がさらに魅力的な空間にリニューアル!

上質で洗練された和のしつらえの披露宴会場は、表情豊かな庭園を望む
ホワイエを新たに併設し、大切なゲストをおもてなしいたします。



Utsukushi no mori Marriage story

うつくしの社

射水神社

射水神社

検索

U R L <http://www.imizujinja.or.jp>

Eメール info@imizujinja.or.jp

お問合せ [\(0766\)22-3104](tel:0766223104) 〈結婚式場〉(0766)22-0808